

平成21年10月号 経営者とリーダーは人格を磨け

「日本で一番大切にしたい会社」という本が30万部以上売れていました。この本の本題には驚意的な売れ方です。著者の法政大学の坂本光司教授が「人に優しい会社を目指しなさい」と論文の中で社員のモチベーションについて書かれています。「社員のモチベーションが高い企業と低い企業とを3年間比較研究したことがある。そこで分かったことは人事制度や給与制度はほとんどモチベーションに影響を与えない。結論はリーダーの人格。経営者や上司への信頼が薄れた時にモチベーションが低下することが判明した。どんな制度を作るかではなくどんなリーダーがいるかが大事であって、経営者が自分自身を変えず自分以外のものをいくぶん変えても会社はよくなりません。」

これは500社以上のアンケートの結果です。坂本先生のことが税理士新聞でも掲載されているので添付しておきます。この研究成果は、中小企業経営者で勘違いして社員教育が足りないから業績が悪いと思っている方に多くの気づきを教えてくれます。モチベーションが低いのは社員の責任ではなく自分の人格にあるのだと。もうくわかれば経営者は人格を高めればよいわけです。

人格を高めるのはどうすればよいのか。中小企業の経営者で自分は人格が高いと思っている経営者はほとんどいないのではないかと思っています。みんな自分の人格が低いために失敗をし、社員に迷惑ばかりかけていると反省ばかりしているではないでしょうか。私も毎日反省ばかりしています。もっと準備をしっかりしておけばよかつたと実力不足を痛感しています。経営者・リーダーは自分では人格が低いと思っています。社員やお客様等の関係者が「人格が高く尊敬されればよいのではないか」と思うが、自分がどう思っているかではなく他の人がどう思っているかが大事なのではないでしょうか。他人が「人格が高」と思われる方法の一つとして経営計画書の経営方針書があります。経営方針書には、長期事業構想書が書いており、会社の未来と社員の未来が書かれています。特に社員の待遇で社員が「社長は今まで自分達の将来を考えてくれているのか」という内容を書けば、社員は社長を尊敬し、社長を信頼しつづけて来れるのではないかでしょうか。さらには個別方針では、環境整備に力を入れ、そこには書かれている整理、整頓、清掃、作法、挨拶、言葉使い等を社長、リーダーが先頭になって実践していけば、直達だけでなく人間性が向上し、尊敬される人格になれるのではないか(よう)が、社長・リーダーの後ろ姿を見て、社員は経営方針書に書いていることの本気さを感じとり、その方針に協力し、社員自身も変わり、社員のモチベーションが高まるのではないか(よう)が。

経営計画書は社長が変わると、社員のモチベーションが高まるまさに魔法の書です。多くの会社が数字の計画は作るのですが、方針書まで作っていません。もったいないことだと思います。目の前に会社と社長、社員がよくなる便利な道具があるのに使おうともしません。多くの会社の社長は社員想いで、自分を犠牲にこれまで会社をよくし、社員に幸せにならうと思っていましたが、表現力が乏しいために社員に伝わりません。経営計画書により、社長の想いを表現し、価値感を共有し、理想とする会社を共に創るにはありませんが。